

# 学校の教育目標及び基本方針



足立区立伊興中学校長 千葉 千登勢

## 1 教育目標

### (1) 本校の教育目標

- 進んで学ぶ生徒 ○ 心豊かな生徒 ○ たくましい生徒

### (2) 本校の重点事項

社会状況の変化に対応し、逆境に負けない心と地域・社会に貢献できる力をもった生徒の育成

### (3) 本年度の重点的な取組

## 取組, 1 基礎学力の定着と向上を目指した「分かる授業」の実現

### ① 「足立スタンダード」に基づいた授業実践

「めあて」「振り返り」を明確にした授業展開と授業改善、AIドリルを活用した補充学習、各種コンテスト、単元・小テスト、家庭学習を充実させることで、生徒一人一人に基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。全教員一人1回の研究授業と授業観察を行い、授業力向上を目指す。



### ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教育活動の実践

各教科「主体的・対話的で深い学び」の視点から思考力・判断力・表現力を育成するための授業展開と教科横断的に全教育活動で指導する。単元の始めにガイダンスを設け、学習に見通しをもたせる。

### ③ GIGA スクール構想の実現を目指した教育活動の実践

教科指導や総合的な学習の時間を通して、生徒一人一台タブレットやAIドリルの効果的な活用法について、実践と研修を推進する。一人1回ICTを活用した授業を公開し、研究授業を実施する。ICT推進員委員会を中心にタブレット等の効果的な活用について推進する。



### ④ 小中連携教育の継続

学習面では「9年間の学びの継続」の視点の下、区学力調査結果を活用して研究授業、教科部会を実施し、近隣小学校との連携を図っていく。

## 取組, 2 豊かな心・健やかな体の育成

### ① 人権教育の推進

生徒一人一人の個性と多様性を重視した「人権を尊重する学校」を教員が自ら模範となつてつくる。具体的には、生徒の頑張りを可視化するための掲示物の充実を図る。また、ルール、マナー、挨拶、5分前行動、TPOをわきまえた言葉遣い等の凡事徹底と主体的に正しく判断できる生徒の育成を通して生徒の自尊感情や自己肯定感を高める教育を推進する。



### ② 道徳教育の推進

思いやりの心、生命尊重、自己肯定感、規範意識、平和を愛する心を育成する道徳教育を全教育活動の基本にして実施する。また、「特別の教科 道徳」では、「考え 議論する活動」を重視し、保護者や地域にも公開する。



### ③ 「足立区いじめ防止基本方針」に基づいた組織的な対応

「いじめ防止対策委員会」を中心に「いじめアンケート」「いじめ個票・一覧表」「WEBQU」等による情報を共有し、いじめの早期発見・早期対応を行う。また、SCやSSW、教育相談関係機関と連携した対応を行う。



### ④ 不登校生徒の組織的な対応

教育相談コーディネータ・SC・SSWを中心とした「修学支援委員会」において、情報共有と対応策について教育相談関係機関や外部支援事業の活用も視野に入れながら検討し、不登校生徒の未然防止と学校復帰、社会的自立の支援を行う。



- ⑤ 特別支援教育の推進  
特別支援学級（7組）との交流及び委員会活動、学校行事を通じて、互いに深く理解し、支え合う教育活動を実施する。修学支援委員会を中心に特別支援教室の生徒理解を深め、「ユニバーサルデザイン」の視点の下、授業を展開する。
- ⑥ オリンピック・パラリンピック教育「学校2020レガシーの推進」  
体力調査の結果を踏まえて体力の向上を図るとともに、健康教育や食育、安全教育の充実を図り、心身ともに健康な生徒を育成する。

## 取組, 3 社会的自立に必要な力の育成



- ① キャリア教育の充実  
夢デザインシートの活用や職場体験、職業人に話を聞く会等を通してキャリア教育を充実させる。「基礎的・汎用的能力」のうち「自己理解・自己管理能力」の育成を目指して「気持ちをキャッチ、考えを伝達」をキャッチフレーズに全教育活動で指導する。



- ② 外部人材の活用  
「総合的な学習」では外部人材を活用し、主権者教育・福祉環境教育・国際理解教育・平和教育・食育・情報モラル教育・性の多様性・生命の安全教育等の今日的課題を取り上げ、幅広い視野と自立する力を育成する。



- ③ 自治活動の充実  
運動会、合唱コンクール等の学校行事やボランティア活動を通して、生徒会や各委員会が中心となって運営できる力を育成する。また、「新標準服にともなう学校のきまりについて」生徒自身が思考し、判断する力を育成する。

- ④ 学校と地域の連携・協力支援  
開かれた学校づくり協議会およびPTA、おやじの会と連携し、地域に開かれた学校をつくる。また教育活動に関する情報を積極的に発信するとともに、学校関係者評価を学校運営に活かし、保護者や地域と連携しながら生徒の社会的自立に必要な力を育成する。



## 取組, 4 教職員として視野を広げ、高い指導力の育成



- ① 教員同士、互いに「尊敬と感謝」の気持ちを大切にする風土をつくる。
- ② 地方公務員として、サービスの厳正、適切な人権感覚・言語感覚をもつ。
- ③ 危機管理意識をもちながら指導にあたる。（報告・連絡・相談を密に行う）
- ④ 安易な前例踏襲ではなく、5年先、10年先を見通した指導を心掛ける。
- ⑤ あだちからの日を活用し、教材研究と生徒理解の時間の確保と心の栄養を摂る時間を確保する。

